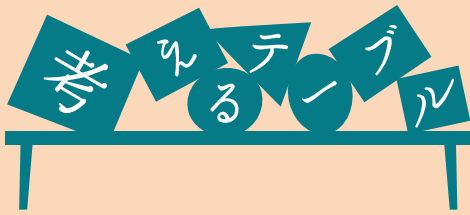


てつがくカフェ

= 第68回 =



てつがくカフェとは？

「てつがくカフェ」は、わたしたちが普段、当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いとして投げかけます。そして、ゆっくりお茶を飲みながら対話し、自分の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。

<https://www.smt.jp/projects/cafephilos/>

「てつがくカフェ」で行われるさまざまなイベントのスケジュールやこれまで開催されたイベントのレポートを閲覧できます。

「考えるテーブル てつがくカフェ」は、これまで7年にわたり（延べ65回）震災に関連した哲学対話の場をひらいてきました。毎回事前にテーマを設定（共有）し、参加者どうしの丁寧な対話をもとに、震災にかかわる問いや課題に迎えてきました。震災から8年目を迎えた今、その長い時間の経過とともにそれぞれの震災に対する考え方や関心のあて先、さらにはそれらに対する意識の強さにもさまざまな〈違い〉が生じつつあります。

そこで、「考えるテーブル てつがくカフェ」では、そのような個々人のあいだにある〈差異〉にこまやかに対応し、また被災地の今の空気感や気分にもいつそう寄り添っていきけるように、今年度からはあえて事前にテーマを設けず、参加者の方々とその場で毎回テーマを決めながら対話を深めていきたいと考えています。

あたらしい「てつがくカフェ」の取り組みがはじまります。みなさま、ぜひご参加ください。

助成：一般財団法人 地域創造



せんだいメディアテーク

仙台市青葉区春日町 2-1

022-713-4483

トークネットホール仙台 (仙台市民会館)	東京エレクトロニクスホール宮城 (宮城県民会館)	仙台市役所		宮城県庁	
		定禅寺通		勾当台公園	
		広瀬通			
西公園通	晩翠通	国分町通	東一番丁通	東二番丁通	愛宕上杉通
	青葉通				
大町西公園			青葉通一番町		

至盛岡

JR仙台駅

※この用紙はリサイクルできます

2018年11月25日(日) 15:00-17:30

せんだいメディアテーク 7f スタジオ a

申込不要・参加無料・直接会場へ

主催：てつがくカフェ@せんだい／せんだいメディアテーク

お問い合わせ：mmp0861@gmail.com（てつがくカフェ@せんだい・西村）

前回てつがくカフェのレポート

第 67 回 てつがくカフェ / 2018 年 9 月 23 日 / メディアテーク 7f スタジオ a

今回のてつがくカフェでは、まず前回のてつがくカフェで出された震災に関しての問いを共有するところから始まりました。そして、福島とそれ以外の地域の人との認識があまりにも違う、という発言から対話がスタートしました。その発言を怒りと捉えた参加者、いいや怒りではなくあきれたと言う参加者。そこから「怒りとは何か」というテーマで対話することになりました。

はじめに、「怒り」とはどのようなものか、思ったことを自由に出していきました。怒りの背景には「自己愛」や「正義感」があるのではないか。また、自分の苦しさやそう感じない他者との差が、怒りや悲しさ、やるせなさを生み出すのではないか、という意見が出されました。

たとえば、原発事故の汚染水の処理をめぐり、一部の地域に担わせるか全国で負担を共有するかの問題があげられました。それを「怒り」という点で見たときに、一連の問題の怒りのもって行き場として「負担の共有」があるのではないかと問いかけがありました。また、怒りは感情なので政治や経済に利用するのはいけないとあげられる一方、世の中を動かす大きな力にもなるとの意見も出されました。どうすれば当事者とそれ以外が分断しなくなるのか。それは難しいことですが、怒りは分断された二者の「つながろうとする意志」の表れではないかという意見が出されました。

さてここで、「怒り」に似た言葉である「不満」「怒る」「叱る」について整理をすることとなりました。「不満」は具体的に対象がある感情。「怒る」は感情を表わして責める俗人的な感じ。そして「叱る」は責任を問い責める論理的な印象。いずれも対象がはっきりとしており原因も具体的なようです。では「怒り」はどうでしょうか。「怒り」の背景には社会的なメッセージがあるという意見が出されました。そして「怒り」は、自分ではどうすることもできないことに対する感情であり、そして自己愛や正義感、通念（ただし共有しきれているわけではない）などが損なわれたときに起きる感情であると意見が出されました。「怒り」は他の3つの言葉より抽象度が高いことが見えてきました。

ここで、「怒り」をさらに深く考えていくためのキーワードを挙げていきました。

- ・感情的／論理的
- ・誰が（主体）（当事者か？それ以外か？）
- ・対象
- ・理由
- ・ちゃんと聞けない（受け手）
- ・自己愛ではない
- ・結果

キーワードを出していく中で、「怒り」には次のようなサイクルが見えてきました。

不満や悲しみがある（抑制）→怒り（エネルギー）→新たな怒り／喜び

抑制された不満から怒りが表出すると、外部（周りや社会）に変化が起きます。それは解決かもしれないし、妥協や我慢の場合もあります。その結果が、新たな怒りにつながったり、喜びに変わったりするのです。「怒り」というエネルギーが、結果的に喜びに変わればよいのですが、うまくいかない場合は新たな「怒り」を生み出します。これがどちらに転ぶのかはわからないのです。

また、「怒れない」とき、抑制された不満や悲しみはやるせなさになるのではないかと意見も出されました。

ここまでの考察で、あらためて「怒り」とは何か、定義することとなりました。出された意見は以下の2つでした。

- ・怒りとは、方向性が不明なエネルギーである
- ・怒りとは、何もできないときに生じる

この定義を出したところで時間終了となりました。もちろんこの定義は、この場で対話した中で出された定義です。「怒り」の正体はまだまだ捉えきれたわけではなく、さらに踏み込んで考えていくこともできるでしょう。ここから先はそれぞれが持ち帰り、さらに考えを深めていくこととなりました。